

ブリュッセルの危機役者：パリ、ボストンの後、3度目の テロを生き延びた男

【訳者注】この青年役者は、はっきりと身元が割れている一人の例であって、ほかにも職業的にこれをやる人物が見つかっているようである。3/13 記事「アメリカ人は、統制された出来事によって作られたニセの現実の中に住んでいるのか？」の中でも、サンディ・フック小学校乱射事件での、この種の役者について言及されている。

この記事は、むしろ論者のウィットを楽しんで読むべきものかもしれない。

HumansAreFree.com

Alexander Light

主流メディアによれば、このアメリカのティーン・エイジャーは、パリとボストンの後、全週はブリュッセルで、3度目のテロ攻撃を生き延びたのだという。

<http://humansarefree.com/2016/03/operation-gladio-strikes-brussels-on.html>

(これは、長い一連の、素人のように演出されたニセ旗事件の中でも、最も滑稽な物語の一つであるに違いない。だから私は、これを真面目に受け取るつもりはない。)

<http://humansarefree.com/2015/09/why-are-elite-orchestrating-such.html>

ABC ニュースによれば、Mason Wells は、わずかな負傷——アキレス腱の断裂、炸裂弾による負傷と火傷——だけで、3・22ブリュッセル攻撃から逃れたのだという。

<http://www.abc.net.au/news/2016-03-23/brussels-us-teen-survives-three-terror-attacks-father-says/7270310>

メイソンの父はABCに対し、彼の息子は、2013年のボストン・マラソンのときも、母が出場していて、ゴールラインからほんの1ブロックの所にいたと語った。そのとき爆弾が炸裂し、3人が死に、260人以上が負傷したことになる。



今回の証言では、この重傷にもかかわらず、理路整然としゃべっている。

(私自身と献身的なオンライン調査共同体は、ボストン・マラソン爆発事件の公的物語のウソを指摘する、膨大な数の矛盾点をあげた大量の証拠を集めている。この問題についてのすべては、[ここで読むことができる](http://humansarefree.com/2013/04/the-boston-bombing-is-inside-job.html)。) <http://humansarefree.com/2013/04/the-boston-bombing-is-inside-job.html>

アメリカ、ユタ州出身のこの青年は、一連の同時テロ攻撃が全市を揺るがし、129人の死者を出したと言われる、11月13日のパリにもいた。

(パリもまた、もう一つのニセ旗事件で、その矛盾点は、たぶんあなたも睨んでおられる通り、豊富に存在する。これについて更なる情報が、[こことここ](http://humansarefree.com/2015/11/9-reasons-to-question-paris-terror.html)にある。)

<http://humansarefree.com/2015/11/9-reasons-to-question-paris-terror.html>

<http://humansarefree.com/2015/11/the-paris-flase-flag-latest-news-you.html>

ありえない偶然

公的なデータによると、テロ攻撃は非常にまれであって (そうでないと思わせようとする主流メディアの努力にもかかわらず)、テロリストに殺されるよりも、脳を食べるアメーバによって死ぬ方が 22 倍も確率が高く、またアメリカの警官に殺される方が 6 倍も高いのだという。 <http://humansarefree.com/2015/11/4-examples-of-mainstream-media.html>

メイソン君 (それにしても、この名前がすごい!) が、これら極端にまれな事件を、3 度も、3 つの異なった国で直接体験するとは、彼は世界で最も幸運か、最も不運な人間の一人なのであろう——私には判断できない。

少なくとも一つ明らかなことがある——もしこの男を見かけたら、**逃げろ**、ということだ!

<https://youtu.be/B2Dx5jxk6NA>

そして、もっとある . . .

このことから思い出される 2 つの他の、信じられないケースがある——MH17 と MH370 ニセ旗事件にまつわる話だ。

<http://humansarefree.com/2014/07/busted-mh-17-was-in-fact-lost-flight-mh.html>

<http://humansarefree.com/2014/04/breking-news-flight-370-passenger.html>

オランダのサイクリスト Maaten De Jonge は、MH17 と MH370 (共に墜落したとされるマレーシア旅客機) の両方に搭乗したと思われていたが、どちらにも乗っていなかった。彼は“2 度ラッキー” だったと言われている。

<http://www.telegraph.co.uk/news/worldnews/europe/ukraine/10978909/Dutch-cyclist-was-due-to-fly-on-MH17-and-MH370-but-changed-plans-both-times-says-his-luck-was-inconceivable.html>

Kaylene Mann (オーストラリア人) は、MH370 には弟が乗り、MH17 には義理の娘が乗っていたと言われている。彼女は“2 度アンラッキー” だったのだろう。

<http://www.smh.com.au/nsw/the-couple-who-lost-loved-ones-on-mh370-and-mh17-20150702-gi3fvz.html>

さらに、サンディ・フック事件 (もう一つの、大変な数のミッシング・ピースと、答えのない疑問だらけの、大きなニセ旗事件) で殺されたことになっていた子供たちの家族が、マラソンの行われたとき、ボストンにいて、もう一つのやらせテロ攻撃に参加していた。

<http://humansarefree.com/search?q=sandy+hook>

だから彼らは、危機役者（**crisis actors**）が不足していて、何度も同じ役者を使わざるをえないのか、それとも、彼らは我々を見くびっていて、点と点を結び付ける能力などないと考えているのか、どちらかだろう。（ちなみに、興味のある方は、[こちらでこの種の役者を雇ってくれる。](http://crisiscast.com/) <http://crisiscast.com/>)